

件名：2023年第5回流域シンポジウム実行委員会議事録

日時：令和5年7月20日（木）10：00～12：00

方法：Zoom

出席者：日向氏、清水氏、中村氏、倉橋氏、有井（一）氏、有井（鈴）氏、中門氏、岡田氏、
峯谷氏、豊田氏

神奈川県広域水道企業団（吉田氏）

山梨県自然共生推進課（杉山課長補佐）、相模原市水みどり環境課（佐藤総括副主幹）

神奈川県水源環境保全課（保坂グループリーダー、遠藤主任主事、米山主任技師）

内容

1 前回からの進捗について

- ・城山ダムの事例発表について、担当課である神奈川県河港課あて、岡田実行委員長から打診したところ、ほぼ内諾を受けた。
- ・流域治水プロジェクトの説明について、トークセッションの時間を確保するため、時間のずれを極力減らすよう動画にすることとした。
※京浜河川事務所に確認したところ、動画はあることから、今後内容を確認する。
- ・共催（海老名市）・後援（NPO 法人神奈川県自然保護協会）については事務局から申請を行う。
- ・オンライン配信について、昨年に引き続き梶間氏に依頼することとした。9月後半には配信設備等を確認するため、下見を行う予定。

2 事例発表・トークセッションの検討

- ・河港課とトークセッションについて調整しているが、住民参加について、河港課の独断で回答することは難しく、京浜河川事務所との調整が必要なため、現在調整中。
⇒後日、トークセッションへの参加ができない旨連絡があった。
- ・トークセッションの内容について、以下のとおりの意見があり、次回の実行委員会で改めて協議することとした。
 - 住民参加について、漠然としていることからイメージが見えにくい。直接受ける被害を避けることや、減少させるための住民参加なのか。
 - 流域治水はまだ始まったばかりで、十分に固まっていないところがあることから、河川管理者といった関係者が住民と一緒に検討を行うということが、住民参加の本質ではないかと思っている。
 - 方向性として2つあると思っており、1つは流域治水という動きに対し、流域協議会として流域治水協議会といったところへの関わり方、もう1つは、例えば線状降水帯によって河川が氾濫したときに、被害にあって苦勞している方への支援といった自助共助といった流域全体として助け合いができる形で、この方向性に流域協議会が関わっているかということを見据えてやっていけばいいのではないか。
 - 来年は山梨県でシンポジウムを行うことから、そこにつながるようなトークセッションにできればいいのではないか。
 - 受動的な形での住民参加にとどまっていることから、住民側から能動的に働きかけるような住民参加という形で持っていけばいいのではないか。
 - 流域治水という言葉を知っていても、その内容を知らないことにより、それがどう生活に関わってくるのかわからないという意見がオンライン勉強会であったことから、流域治水がどういうものかを市民が知ることが必要。解決策の提示ではなく、課題の掘り起こしと共有がいいのではないか。
 - 流域治水とはどういうものなのか、その考え方をシンポジウムで説明してもらい、参加者各自が何ができるかを考えるきっかけになれば、今年度のシンポジウムは成功と言えるのではないか。行政、事業者、市民のそれぞれの立場で流域治水としてできることをまず考え、行動につながるようになれば良いのではないか。
 - 今回の災害を見ていると、地域で河川に対する危機感を持っていないと対策がとれない

こともあるため、流域治水がどういうものなのか、それをきっかけに自分の住んでいる地域がどういう地域なのかを考える機会になるといいのではないか。

- 市民の立場として何ができるのかということが見えるセッションがいいのではないか。
- ・事例発表の流れについて、プログラムのとおり流域治水プロジェクトの動画放映、流域住民の令和元年東日本台風に係る当時の対応や体験談、城山ダムの緊急放流に関する発表とすることにした。
- ・今後、基調講演やトークセッションの内容、状況等について嘉田氏と再度打合せの希望があったことから、事務局で調整を行う。

3 流域シンポジウムの諸事項に係る検討

- ・神奈川県広報誌（県のたより）に掲載する関係で、以下のとおり決定した。
 - 申込み人数は150人とする。オンラインは有線LAN接続ができるので、上限は決めなくても大丈夫だが、梶間氏と9月下旬に設備の下見・配信テストをするので、それを踏まえた人数とする。
 - 申込開始日について、県のたより10月号への掲載の関係上、10月16日から開始とし、11月13日までとする。また、申込フォームについては、例年同様、ホームページから入れるように10月の初旬までに設定する。
昨年の反省点として、申込みをした後、受付が完了した連絡が設定上漏れていたため、今年度は返信がされるように対応する。
次回の実行委員会のときまでに申込フォームの案を作る。
 - 今回も、前回に引き続き記者発表を行い、合わせてPR TIMES（プレスリリースサービス）を用いる。
- ・チラシについては、以下のとおり
 - チラシのデザインについて、安斉さんをお願いしているが、8月上旬での確認は難しいので、出来上がり次第、メールもしくは実行委員会が近くに開催されれば、そこで確認をする。
 - 裏面の詳細については、プログラムの調整により動くため、案を作ったうえで実行委員会において確認する。
 - 部数については、次回の実行委員会で確認予定。
 - 中門氏から安斉さんへの依頼について、事務局からも依頼するよう打診があった。
→後日、事務局より連絡し、スケジュール感等確認した。
- ・展示について、事務局より報告があった。
 - 7月に改めて下見を行い、展示エリアや付属品等の詳細について確認した。
 - 行政会員、事業者会員は、既にこの情報について周知しており、展示希望について確認している。
現時点で、開催市である海老名市ほか2団体から希望を受けている。
 - NPO法人神奈川県自然保護協会に対し、展示依頼の打診、後援について確認している。
 - 前回の実行委員会で山梨県側の展示の意向を聞いているので、それも数に含めている。
 - 日向氏より、企画展のような形で流域市町村のハザードマップを収集して発表することについて提案があり、事務局で整理することとした。
 - 岡田氏より、鮎の産卵動画の映像を流す際の電源確保の話があり、事務局の確認結果を報告した。また、中門氏よりさがみ自然フォーラムの展示のときに、ディスプレイにUSBを差して映像を映していたため、鮎の動画についてはこの方式を使うといいのではと提案があり、方法等について検討することとした。

4 その他

- ・次回開催日を9/7（木）10：00～12：00にすることとした。

以上